

長久手市環境審議会 環境基本計画策定部会ワークショップ 2020.06.22.Mon

【要点整理】

A. 脱炭素のくらしと地域づくり

	単位施策	2025 年までの重点的取組	2030 年までの成果指標
A-1 エネルギー使用量を減らす	A-1-1 暮らしや事業活動における省エネの実践	■ 省エネ・温室効果ガス排出削減効果の見える化アプリの開発・普及 (見える化⇒自分の行動の効果を認識⇒他者の行動も知る⇒自分の立ち位置を知る) ■ アプリの活用と連携した省エネ学習会の開催 (家電やエコカーへの買替の省エネ効果とコストの関係等を周知する「環境×お得」) ■ 推奨する省エネ家電などを長久手市民みんなで購入－メーカーと交渉して市民向け販売価格を設定してもらう。	□ 見える化アプリの参加人数 □ 見える化アプリ参加者による温室効果ガス平均削減率
	A-1-2 移動・自動車利用のあり方転換	■ 自転車利用の促進 ・駐輪スペースの計画的確保 ・市内シェアサイクルシステムの構築 (ござらっせ、イオンを拠点に)	□ シェアサイクル走行距離を自動車からの転換とみなした温室効果ガス削減量
	A-1-3 社会システム、ライフスタイルの転換	■ テレワーク、リモートワークなどの推進 (省エネ効果を把握して市民に知らせて普及を促進)	
A-2 再生可能エネルギー・水素エネルギーに転換する	A-2-1 再生可能エネルギーの利用促進	■ 家庭ごとの小規模創エネ-活用 の検討・試行 (太陽光発電、小水力など)	□ 市内消費電力における再生可能エネルギー利用率 (算定は難しい、市民における利用者率?)
	A-2-2 再生可能エネルギーの創出	■ 剪定枝、間伐材、竹を活用したバイオマス発電の実験的取組	
A-3 脱炭素の住まいやまちをつくる	A-3-1 環境配慮型まちづくりの推進		
	A-3-2 まちにおける緑の保全・創出		

B. 循環型のくらしと地域づくり

	単位施策	2025 年までの重点的取組	2030 年までの成果指標
B-1 ごみを出さない、つぐらない	B-1-1 生ごみ・食品ごみの削減	■食品ロスの削減、意識改革のために、生ゴミ組成調査の結果を市民に知らせる（市民が実感する、納得する説明が必要）。 ■事業所の食品ロス削減のため、受入先とのマッチングシステムをつくる（事業所からの食品ロスが大きい。その対策が必要）。 ■生ごみともえるごみを分別する（豊橋市などは発電に利用している）。 ■紙おむつの再利用（生ごみではないが量は多いので）。	☐ 生ごみの市民一人あたりの排出量
	B-1-2 脱プラスチックの促進	■マイボトルの普及（アピタ、イオン等と組んで、かっこいいボトルを商品化する／マイバックのボトル版）。 ■プラごみ削減キャンペーン…テイクアウトのプラ容器を店で回収し、ポイント化する（プラごみはポイ捨て防止が重要、小売のところで回収）。	☐ — ※事業系を含めると数値化は難しい。
	B-1-3 ペーパーレスの普及	■ペーパーレス会議の普及、連絡文書のデジタル化（行政が率先して行動する／メールに限らず新しいツールで）。 ■地域・家庭では、目的別にペーパーレスにできること、できないことがある。そこを見定めて、できることから進める。※行政や事業所での普及はよい。地域での普及は容易ではない。とくに高齢者対応。	☐ （未検討）
B-2 物を大切にする、使えるものを再利用する	B-2-1 長く使う・循環的に使う	■シルバー人材センターと協力してリフォームストアを設ける（現在年1回のおもちゃ病院も月1回の開催へ） ■子どもたちへの教育が重要（リフォームストアでリペアのスキルも教える／地域活動	☐ リフォームストア利用者数

	単位施策	2025 年までの重点的取組	2030 年までの成果指標
		としても取り組む)。	
	B-2-2 不用品交換システムの充実	■エコハウスホームページに不用品交換のページを設ける（交換日をもうけてエコハウスで交換／ベビー用品、図書など品目も増やしていける）	□不用品交換ホームページへのアクセス数
B-3 資源として再生する	B-3-1 ごみ分別ルールの徹底	■広報の充実、結果の見える化（分別した結果がどうなるかまで知ってもらい、納得してもらうことが重要）。 ■ごみの分別体験（まだまだ知らない人は多い。とくに単身者）。	□－
	B-3-2 多様な主体による資源回収の促進	■資源回収拠点を増やす（増やせるのか？） ■巡回型資源回収拠点（リサイクル拠点）の設置の検討	□－
B-4 適正に処理する	B-4-1 ごみ・資源の収集・運搬・処理の適正化	■地域清掃活動（一斉清掃日を設けて地域で地域をきれいにする。住民への意識づけ）。 ※マンション等が自治会に加入していないことも課題	□－

C. 自然共生の暮らしと地域づくり

	単位施策	2025 年までの重点的取組	2030 年までの成果指標
C-1 在来種を大切に する	C-1-1 生態系・生物多様性の保全	■生態系の復元、ネットワーク化に向け、開発エリアと保全エリアの区分を明確化 ■生態系保全を担保できるミチゲーションバンキングなどのしくみの検討 ■希少種の保護活動や市民への正しい知識を普及するため、生き物マップを使った散策コースの提案（散策+生き物学習+保全活動）	☐ 生き物マップを使った生き物散策の参加人数
	C-1-2 特定外来生物対策	■外来生物や駆除方法などを学ぶ特定外来生物勉強会の開催 ■外来生物ごとの駆除方針の検討と継続的な駆除活動の実施 ■生き物の生息状況の見える化（外来種や希少種の個体数の状況を広報する）	☐ オオキンケイギクの繁殖エリア面積、駆除した量
C-2 緑・自然を増やす、育む	C-2-1 緑地・樹林地の保全	■樹林地、農地の保全に向け、所有者との管理協定等の締結による保全管理（市民緑地制度の活用） ■地域、学校、企業等が活動の主体となって取り組む里山保全活動の自主性・継続性を高めるための支援	☐ 保全活動参加者の人数
	C-2-2 緑化の推進	■地区ごとのシンボル生き物（植物等）の選定による緑化活動などの実施に向け、地区ごとに取り組む活動メニューづくり ■在来野草・樹木による緑化に向け、学校や企業等での在来野草・樹木等の栽培活動（苗木づくり等）の実施	☐ 緑化活動に取り組む地区・団体の数
	C-2-3 水辺の保全	■水辺に親しむイベントや生き物調査の実施 ■ため池の現況調査の実施 ■ため池毎の管理ロードマップの作成	☐ ため池の管理ロードマップの作成数
C-3 自然を活かして	C-3-1 農ある暮らしの推進	■休耕田の農的利用に向けた勉強会の開催	☐ 休耕田の解消面積（農的利用による）

	単位施策	2025 年までの重点的取組	2030 年までの成果指標
暮らす		■ 休耕田を活用した市民農園などの整備	
	C-3-2 里山暮らしの推進	■ 里山プレーパークの整備 ■ 里山保全活動のリーダー養成 ■ 子どもが参加する里山保全活動等の実施 ■ 里山保全活動のビジネス化検討（令和型木材チップ活用の検討） ■ 空き家を活用したカフェやアトリエなどの誘致によるおしゃれな里山エリアの形成（長久手版の里山モデル開発の検討）	□ 里山保全活動に参加する子どもの人数